

学びの実感

ことばのちからは 生きる力

仙台市立古城小学校
研究部だより
2013年
10月11日(金)
NO: 11
文責: 金子

◎1年生の児童に「自分の考えを発表する」「自分の友達に伝える」ことはとても難しいことだと思います。児童の実態を踏まえて考え取り組んだ授業でした。

どちらがおおい(昌子学級・晴美学級)

◇事前授業から◇

▲課題

- ・前谷先生の学級で取り組んだ先行授業でした。1年生の児童でも記入しやすいようにと、いろいろな枠を作って「学習プリント」を用意したそうです。しかし、枠がいろいろあったために「先生！ここに何書くの？」の嵐…。「書かせるのに大変苦労しました」とのこと。それを踏まえて、以下のように変更したそうです。



◆事前検討会から◆

①あえて無地プリントを使用する。

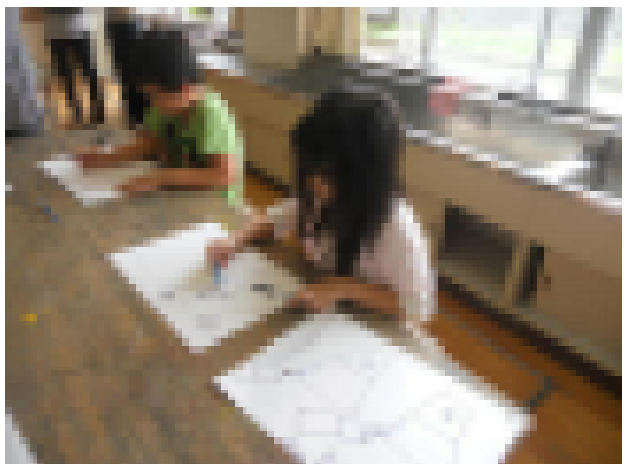
- ・児童の実態を十分に踏まえ、学習に集中できるものと考えて、無地を選んだそうです。
- ・自分の考えを表現するときに、自由に記述できるように…との狙いがあったそうです。

②話し方の工夫(状況設定)

- ・話し手と聞き手の札を作り、ペア学習の際にスムーズに活動できるように工夫しました。
- ・はじめに・つぎに・それから・さいごにの札を作り、児童が発表する際の手助けになるように工夫しました。
- ・「絵、図、言葉」どれも自由に選んで発表させたい。その際に、本人か教師が実験をしたり、手伝ったりしていく。

③場の設定の工夫。

- ・「水を使った活動なので集中したり、気持ちを切り替えたりすることが難しいと思われる」とのこと。それを受けて、具体物を使って活動する場、自分の考えをまとめたり友達に伝えたりする場を変えることにしたそうです。このことから今回は「図工室」を学習の場を選びました。



④「比べ方」について

- ・「どちらが多いのか」が分かれば良いので、正しく計ることは求めない。とにかく、視覚的にも有益で、操作しやすいものを用意したい。と言っていました。

【事後検討会】

〈昌子先生：自評〉

- ・場の設定の工夫が授業に大きく関わってく
ることを再認識できた。
- ・事前授業で直接比較と間接比較に分けたた
め、ペア学習ではねらいがそれてしまった。
- ・書く活動と操作活動の場所を変えること
により、考察からまとめへとスムーズに展開
できた。

〈晴美先生：自評〉

- ・授業を参観する先生方の声掛けが子供たち
の励みになっていた。
- ・時間配分を子供たちにしっかりと伝えた方が時間短縮につながったかもしれません。
- ・効果的なペア学習にするために今後とも頑張ります（笑）。

〈参観者から〉

- ・絵も図も言葉もきちんと使っている。教師から子供たちへの「ポイント（ちがい等）」の指示（声掛け）が効果的だった。子供たちが自分の言葉できちんと説明できていた。
- ・言語活動を意識して授業が展開できていた。個人ごとに画用紙も自分の言葉でまとめようとする良いきっかけになった。
- ・「効果的なアナウンス」「分かりやすいアドバイス」がされていて、子供たちの思考の手助けになっていた。
- ・説明のための言葉や話形を取り入れ、訓練していくことが大切であると改めて感じた。すばらしかった。
- ・場の設定が効果的だった。



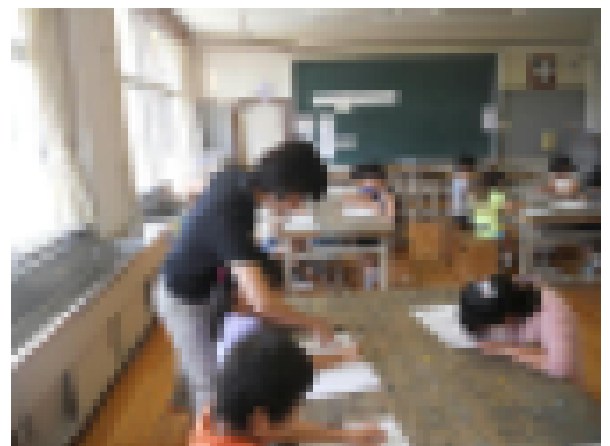
【課題のリレー】

（有効・・・○ 課題・・・●）

- 「説明のための言葉」の表示，話形の効果的な指導。
- 子供たちの思考の手助けになる「効果的なアナウンス」「的を射たアドバイス」の重要性。
- 思考のための時間，操作のための時間，効果的な学び合いのための時間の確保の重要性。

次の授業は…

- 10月後半 瑞希先生 「小数」
 - 10月後半 典昭先生 「かけ算」
- よろしくお願いします。



乱筆乱文ですみません。

修行していきます。m(._.)m